

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

北部基幹家畜診療所 森田 康広

生まれて初めて憧れたスポーツ選手はシカゴ・ブルズのマイケル・ジョーダン。生まれて初めてかっこいいと思った車はランボルギーニ。もうお気付きのかたもいらっしゃると思いますが、好きな選手や車の周りには雄牛のロゴがありました。そんな一見なんでもないことから牛ってカッコいいな～と思うようになり、今の自分があると思うと正直、自分でも驚きです。大学の農学部には畜産系の学科もあり和牛の牧場が敷地内にあったり、繁殖実習用の牛が飼われていたりして、少ないながらも牛と触れ合う機会があり、さらに牛ってカッコいいな～、可愛いな～と感じるようになりました。そんなこともあり牛の獣医師になろうと決心しました。

そして、この4月にNOSAI岡山に入会してもう半年が経ちました。石川県出身なので、最初はまったく知らない土地にやってきたという不安がありましたが、周りの先輩獣医師や農家さんの温かい雰囲気すぐに岡山に来てよかったと感じました。ある先生は農家さんに「森田は直腸検査で口から手が出るから気をつけんちゃい」と直腸検査で苦労している自分を気にして場を和ませてくれたり、ある農家さんには何故か「マラドーナのように繁殖のスペシャリストになれ!」と激励?をいただいたり。また、岡山県は農道や林道が整備されているのでドライブ好きな自分にはうってつけの土地だと感じました。休日は初任給でハンコを押した愛車でドライブに費やしています。

研修中の最初の難題は、繋ぎ牛舎のミルクラインにいかにか頭をぶつけないかということでした。本会獣医師の中でも背が高いほうの自分は、何度も先輩獣医師や農家さんの目の前で“ガスン!”とラインに頭をぶつけ、牛の治療に来たついでにラインを壊してまわるところでした。半年経っても

ふと気を抜くと“ゴン!”とぶつけて一人もんどりうってしまいます。この研修期間中から大学では体験できない、いろいろな症例を見ることができとても興味深く毎日が過ぎていきます。それ以上に失敗も多く経験しますが、診療所の先輩獣医師も農家さんも「失敗せなわからんことがある。」「最初は誰にでもあるから大丈夫」と缶コーヒーをいただいたり、ほんとに温かいなと感じています。毎日が感謝の嵐です。もっと勉強して、多くの経験を積んで大きな恩返しをしたいと感じています。

産業動物の獣医師になった理由のひとつに農家さんの経済活動がありました。初めて農家さんの経済活動の金額が何千万円、何億円だと知ったとき、この経済活動の一翼を担う重要な仕事だと感じ、小動物にはない面白さを感じました。その分シビアな部分がある世界だと現場に出て多々痛感しています。

最近は一人で往診に出ることも多いですが、目指しているスマートな診療には程遠く、毎日泥まみれで筋肉痛と闘い、反省と勉強の毎日です。獣医師の免許をもらった今は、学生のとときは違って自分の経験の一つ一つが農家さんの負担の上に成り立っている所以自分へのプレッシャーが桁違いです。

(おそらく、農家さんの的には一緒なのですが)そのため、パニックになることも多々あります。そんなときは文明の利器、携帯様がいっぱいあります。「〇〇先生!今どちらにいらっしゃいますか!」といった感じでフル活用します。

まだまだ、勉強も経験も足りず、何一つ自分の理想とする獣医師には程遠いですが、日々反省と勉強を怠らないように精進し、一日一歩でも確実に目標へ歩を進めたいです。